

講演の録音テープをとるのが、 一番時間のムダになる。

録音テープをとりながら腕組みをして講演を聞く人は、最も時間のムダづかいをしています。

録音テープがあることに頼って、今その場で頭の中で集中して考えようとしません。とつたところで、結局家でそのテープを聞かないままになってしまいます。

録音をとるよりも、その場でメモをとりきる心構えが必要です。

講演にも当たり外れがあつて、面白い講演と面白くない講演があります。

面白い会議と面白くない会議があるのと同じです。

面白さは内容の密度で決まります。

同じ1時間の講演でも、メモをとるようないことが1個しか出てこない講演は、30個メモをとれる講演に比べたら面白くありません。

第1章 情報の価値は、量ではなくスピード。

面白くない講演に当たった時でも、聞き手はビデオテープのように早送りするわけにはいきません。

私は、講演を聞く時は、目の前に3枚の紙を並べます。

1枚目には、講演している人の話をメモします。

2枚目には、この講演が終わった後の仕事の企画を考え、メモします。

3枚目には、講演を聞きながら思いついた、しかも、その後の仕事ともまったく関係のないメモを書きます。

この作業は、講演をしている人には失礼に当たりません。

自分の時間を優先するあまり、講演をしている人や自分のまわりの人たちに不快感を与えてはダメです。

3枚のメモをとることで、まわりに一生懸命メモをとっているような印象を与え、講演をしている人も気持ちよく話せます。

今の講演と、次の仕事と、それとはまったく関係のない思いつきという3つの作業をこなすと、私自身は結構忙しい。

講演時間の密度がものすごく高くなります。

ただ講演を聞いて要旨をメモするだけなら、通常の頭の回転でできます。

しかし、話を聞くことで刺激を受け、次の仕事に生かせる部分を考える、またそれとは関係のない次の次の仕事の企画を考えていけば、面白くない講演でも退屈することはありません。

頭の回転を速くするには、頭を退屈させないようにこき使う必要があります。

映画館では、つまらない映画も最後まで見なければいけません。

映画が早送りできないように、相手を早送りできない時、あなた自身の頭を早送ります。

ここで、相手の遅いテンポにあなたが合わせていると、みんなのテンポまで遅くするという悪循環に陥ります。

相手のテンポが遅かったら、逆にあなたの頭のテンポを速くします。

つまらない映画は、別のことを考えながら見ればいいのです。

駅のホームには、常に次発と次々発の電車の発車時刻が表示されています。

あなたも、今やっている仕事、次の仕事、次の次の仕事と3つの仕事を考えるようにするのです。

そうすれば、頭の回転がどんどん速くなって、時間の密度が高くなり、退屈を感じなくなります。

スピード
思考法

そのW

録音テープを
後で聞くのはやめよう。

退屈を感じるとしたら、あなたの頭の回転は遅くなっています。

ヒマな人ほど頭の回転は遅いのです。

スピードは加速度で変わります。

プラスの加速度をつければつけるほど、ラクに頭の回転スピードが速くなります。

逆に、いったんスピードが落ちると、次にそのスピードに達するまでに膨大な時間がかかるのです。

情報量は、 量ではなくスピード。

これまでの時代は、情報の量をたくさん持っていることが評価されてきました。これからの時代は、情報をどれだけ速く出し入れできるかが評価のポイントとなります。

情報の量ではなく、スピードで勝敗が決まります。

資料をたくさん持っている人より、量は少なくても、資料が毎日入れ替わっている人が勝ちです。

情報のスピードを上げるには、3段階の作業を必要とします。

速く集める

速く加工する

速く発信する

第1章 情報の価値は、量ではなくスピード。

この「速く」がないと意味がありません。

これまでは、情報を多く集め、多く所有することが重視されてきました。

これからは、同じ情報を集めるにも、明日手に入る10の情報より、今日手に入る3つの情報のほうがずっと重要です。

2番目の加工は、映画の宣伝文句のような「構想何年」より、「構想5分」の情報のほうがずっと価値があるという意味です。

3番目の発信は、加工したものが腐らないうちに速く出すということです。

この3つの作業を高速回転させます。

この作業はまったく別のものではなく、野球の守備と同じで、連動しています。

あなたが野手なら、バッターが打ったボールの落下点に速くたどり着き、ボールを受けてどこに投げるかを考え、次の人にボールを速く渡さなければなりません。ここで、たくさんボールを持っていたり、ボールを持っている時間が長いということとは自慢にはなりません。

情報の価値は量ではなく質だという議論はあまり意味がありません。

どんなに質のよいものでも、スピードには負けます。

時間がたつにつれ情報の精度が上がっても、明日の詳細な情報より今日の速報のほ

うが大事です。

今日の速報といっても、決してウソではありません。

まず第一報を出すことが必要です。

情報の量も質も、スピードにはかきません。

スピード
思考法

そのe

今聞いた情報は、
すぐ使おう。

≡≡≡
3時間で終わらない仕事は、
1時間寝ると、2時間で終わる。

あなたの抱えている仕事の締め切りが3時間後に迫っています。

5時間かかる仕事量です。

この場合、その仕事を普通にやっていると、3時間ではとても終わりません。

「頑張つてやれ」と言われたところで、精神論ではどうにもなりません。

そんな時は、まず1時間寝ます。

寝た後は、頭の鮮度が上がります。

頭が疲れた状態では3時間で終わらない仕事も、1時間寝て、頭をリフレッシュした状態なら残りの2時間で終わることができます。

5時間かかる仕事で、締め切りまで3時間しかない時、「仕方がないから」とすぐにとりかかる人がいます。

しかし、まずこの時点で思い切って1時間寝て下さい。

今疲れている頭をリフレッシュして、頭を切り替えるのです。

この方法で一度成功すると、次回からはあせらなくなります。

あなたが今の仕事の仕方であわない時は、別のやり方を考えればいいのです。

スピード
思考法

そのr

間にあわないと思ったら、
いったん寝よう。

≡≡≡
ペンを手に持ったまま
作業すると、速くなる。

何か作業する時には、私は必ずペンを手に持ちます。

持ったまま作業するのです。

今はメモをとる必要がなくても、その作業が速く進みます。

メモをしようと思いつてからペンを持っていたのでは遅い。

新聞は、ペンを手に持っていると速く読めます。

私は毎日、右手にペン、左手にスクラップのための定規を持って5種類の新聞を読みます。

それらを手に持っているとき、新聞をめくるスピードが条件反射で速くなります。

メモをとりたい時も、ペンを探すために読む作業が中断されることがありません。

頭の回転を速くするには、中断作業をなくすことが大事です。